

# 28日 日曜

## 創世記

15:12 日が沈みかけたころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして、見よ、大いなる暗闇の恐怖が彼を襲った。

15:13 主はアブラムに言われた。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隸となって苦しめられる。

15:14 しかし、彼らが奴隸として仕えるその国を、わたしはさばく。その後、彼らは多くの財産とともに、そこから出て来る。

15:15 あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。

15:16 そして、四代目の者たちがここに帰つて来る。それは、アモリ人の咎が、その時までに満ちることがないからである。」

15:17 日が沈んで暗くなったとき、見よ、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、切り裂かれた物の間を通り過ぎた。

15:18 その日、【主】はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで。

15:19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、

15:20 ヒッタイト人、ペリジ人、レファイム人、

15:21 アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の地を。

祝福の約束をもらったアブラムでしたが、夢うつつのような状態のときに、急に不安に襲われました。誰もおなじような経験があるでしょう。そのようなときは祈って、神様の声を聞くチャンスです。不安



Bible Reference  
聖書の記述

の解決が動機でもかまいませんから、とにかく祈ることです。主はそこから重要で必要なことを教えてくださいます。

アブラムには、その漠然とした恐怖の源について教えられます。それは子孫がエジプトで奴隸として苦しめられることを意味します。しかし、その後の開放と勝利も約束されます。悪いことは起こりうるもの。それに目を閉じて考えないようにすることが、信仰ではありません。事実は受け入れつつ、それを越える神の勝利を約束として信じることです。

エモリ人は、やがてイスラエル人が戦い取つて定住するカナンの地の先住民族です。「咎が…満ちる」とは彼らが罪深いゆえに滅ぼされるというということで、そういう一面もあるのです。さばきの神というだけではなく、周辺の善良な人々を守るという愛の行使でもあります。神様や信仰というものを一面だけでとらえず、神様の大きなご計画に目を留めましょう。

「切り裂かれたものの間を通り過ぎた」とありますが、それは当時の契約の習慣で、もしも破るようなことがあればこのような切り裂かれるという、厳肅な意味で、神様のアブラムへの約束の真剣さを表すものです。

不安なときこそ祈り、平安の約束をいただきましょう。それを真剣に成し遂げてくださる神を信じ抜きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

